



筑紫女学園大学リポジット

The 2009 Activity Report of the Working Group Concerning Cooperation with Museums

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-02-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属: |
| URL | https://chikushi-u.repo.nii.ac.jp/records/224 |

【活動報告】

博物館との連携に関するワーキンググループ 2009年度活動報告

森田真也

The 2009 Activity Report of the Working Group Concerning Cooperation with Museums

Shinya MORITA

はじめに

本ワーキンググループの前身である「九博連携準備委員会」は、九州国立博物館の開館にあわせて、2006年11月に正式発足した。そして、本学の田村史子准教授、時里奉明准教授、大津忠彦教授、森田真也准教授、緒方知美講師によって、その活動を継続してきた。同委員会の活動は、2009年4月に生涯学習センターのワーキンググループに移行した。

同メンバーは、これまで本学と博物館、地域社会の新たな関係の構築と両者の発展を模索しながら様々な活動を行ってきた。2009年度はその延長として、以下のような公開講座と協議会を開催した。これらの開催に関しては、数回の事前打ち合わせ会議、反省会をもった。なお、特別研究会と協議会は、本学の人間文化研究所との共催である。

1 活動報告

1) 公開講座の開催

6月4日木曜日、14時50分から16時20分まで、8号館8301教室にて。

「思い出のチカラ－地域博物館と回想法－」岩崎竹彦氏（熊本大学五高記念館准教授）
約90名出席。

2) 協議会の開催

3月24日水曜日、14時から16時まで、飛翔会館会議室にて。

特別研究会・大学博物館との協議会

特別研究会

「大学の知性の象徴・大学博物館」

高倉洋彰氏（西南学院大学博物館 館長）

大学博物館との協議会

主旨説明と大学からの報告

「大学における博物館・地域との連携の現状と課題」

森田真也（本学生涯学習センター ワーキンググループメンバー）

各大学博物館からの報告：「大学博物館と地域連携」

①「大学博物館の連携プログラムについて」

緒方泉氏（九州産業大学美術館 学芸室長）

②「大学博物館の地域連携活動—西南学院大学博物館の場合—」

安高啓明氏（西南学院大学博物館 学芸員）

③「九州大学総合研究博物館と国、地方自治体との連携事業」

岩永省三氏（九州大学総合研究博物館 教授）

全体ディスカッション

2 活動の成果

岩崎竹彦氏の公開講座では、最初に地域博物館が抱える課題、長寿社会が持つ問題点が指摘された。そして、具体的な博物館活動の事例として回想法を取り上げ、博物館のより地域に根差した活動の可能性が示された。

岩崎氏によると回想法が、医療や福祉の現場だけでなく、地域博物館でも実践されつつあるという。ここでいう回想法とは、記憶を活用する高齢者ケアを目的とした心理療法の一つで、高齢者が過去を振り返って話をすることによって、自己の人生を再評価し、結果として生き生きとした生活を取り戻そうとするものである。回想法には、博物館が所蔵する民具、さらには民俗学の対面調査のノウハウを利用することが出来るという。博物館の回想法の実践は、博物館と地域社会、さらには高齢者福祉、民俗学を結び付けるものであり、異世代間交流、マチづくりといった可能性も持っている。

特別研究会と協議会においては、複数の近隣の大学博物館に関わっている方々をお招きした。

そして、大学博物館の意義と活動についてのそれぞれの報告と議論がなされた。

最初に基調報告として、西南学院大学博物館館長の高倉洋彰氏によって、「大学の知性の象徴・大学博物館」ということで、大学博物館の意義と開設・運営に関わる諸問題が提示された。そして、森田が本学における取組みと課題の報告を行った。

その後、九州産業大学美術館学芸室長の緒方泉氏によって、芸術系学部の実践的教育の場としての大学美術館の活動事例が報告された。次に、西南学院大学博物館学芸員の安高啓明氏によって、福岡市有形文化財に指定された講堂を利用した、大学のシンボルとして、また地域交流の場としての博物館活動の事例が報告された。最後に、九州大学総合研究博物館教授の岩永省三氏によって、文系・理系を超えた研究資料の整理と蓄積、さらには活用について大学博物館の活動の可能性が報告され、全体ディスカッションとなった。

本学において大学博物館の開設は課題も多く、早急にはなしえないものであるが、以上のような活動から、大学と博物館と地域社会との連携活動の重要性について改めて確認することが出来た。

(もりた しんや：文学部日本語・日本文学科 准教授)

